

専門領域「英語」の紹介

2022年5月

1. 英語専門領域が輩出する人材

英語専門領域は、これまでに多くの優れた英語教員・小学校教員を輩出しています。卒業生には、学校や地域をけん引するリーダー的な教員、教育委員会に引き抜かれて指導的な立場になった教員が多くおり、教育現場から高く評価されています。教員採用試験の受験者はほとんどが合格しており、全国トップクラスの英語教員養成講座と言えます。

2. 英語専門領域で学べること、研究すること

英語専門領域では、ことばとしての英語やその習得、英語をとりまく文化や歴史、英語コミュニケーション、英語教育に関する諸課題、について学び研究することができます。そのための専門科目を開講しています。

3. カリキュラム

教科教育コースの「英語」にかかわるカリキュラムは、中学校・高等学校の「英語」の教員免許の取得を前提にして組み立てられています。中学校・高等学校「英語」第1種免許状の取得には、英語科の開講科目から、以下の必修単位に加えて8単位以上の修得が必要です。

英語学（4単位）、英語文学（2単位）、英語コミュニケーション（4単位）、異文化理解（2単位）、教職関連科目（英語教育）（8単位）

小学校の「外国語活動」「外国語」については、小教専および初等教科教育法（教育学部生全員が必修）で学ぶことが出来るのに加えて、英語領域でのゼミ指導・卒業研究で取り組むことが出来ます。

4. 英語教育講座所属教員と専門分野

田中秀毅：英語学

斉田智里：英語教育学

尾島司郎：第二言語習得論・小学校英語

大場貴志：第二言語習得論(指導法研究)・授業実践

Charles Wiz：英語コミュニケーション論

高瀬祐子：英語文学（アメリカ文学）

以上の6名の他に、国際戦略推進機構所属の教員（渡辺雅仁：英語学）や非常勤講師が専門科目を担当します。

5. 英語専門領域で修得できること

教科教育コースの「英語」を専門領域とした場合には、以下のような知識と能力を修得することができます。もちろん、「それなりの努力をしたら」という条件付きです。

- (1) 第二言語としての英語の習得と英語教育に関する知識・研究・実践力
- (2) 英語についての言語学的な知識と研究能力
- (3) 英米の文学・文化についての知識と研究能力
- (4) 英語によるコミュニケーションの能力

6. 教員からのメッセージ

尾島 司郎（英語教育専門、専門領域代表）

皆さんは英語をどのように学んできたでしょうか？自分の学習方法や、英語の先生の教え方にしっかりした根拠があると思いますか？人間の脳には言葉を学ぶ自然なメカニズムが存在していると考えられます。このメカニズムに沿った学習方法や授業方法を採用しないと、外国語の学習は時間ばかりかかって、なかなか満足のいくレベルに到達することが出来ません。大学とは、既に答えが出ている課題について学ぶだけでなく、新しい課題そのものを自分で考えて、誰も出していない答えを追い求めていく場です。日本人にとっての最適な英語学習法や英語授業方法は、まだまだ明確に分かっていないと言えます。英語専門領域で我々と共に新しい問いに挑み、未来の英語教育を創造しませんか？



高瀬 祐子（英語文学専門、オープンキャンパス担当）

教育学部「英語領域」と聞くと、教員になるために英語を教える方法を学ぶ場所をイメージする人がほとんどではないでしょうか？しかし実際はそれだけでなく、ここでは英語学や英米文学、英語圏の文化など英語に関する様々なことを学ぶことができます。私の専門は19世紀のアメリカ文学ですが、授業ではアメリカやイギリスの文学作品を通して、文化、歴史、人種やジェンダーなど様々なことを扱っています。教員は日々児童や生徒にアウトプットする仕事です。そのためには、たくさんのことをインプットする必要があります。魅力的な教員になることを目指し、英語領域で幅広い知識や深い教養を身につけましょう。

